

公益社団法人 私立大学情報教育協会
2019年度第2回
経営学・経済学・会計学・心理学・被服学・物理学・化学・機械工学・建築学・
経営工学・数学・電気通信工学・土木工学・生物学・美術デザイングループ
分野連携合同会議議事概要

- I. 日時 : 令和元年9月29日(日) 10:00~12:00
II. 場所 : 私学会館(アルカディア市ヶ谷) 4階 鳳凰
東京都千代田区九段北4丁目2-25 (TEL: 03-3261-9921)
III. 出席者

角田担当理事兼総括委員長・田辺委員・高野委員(機械工学分野)、寺田委員長(物理学分野)、及川委員長・幅田委員(化学分野)、関口委員長・澤田委員(建築学分野)、雑賀委員・伊藤委員(経営学分野)、林委員長・山田委員・中嶋委員(経済学分野)、松本委員・阿部委員・河崎委員・金川委員・木本委員(会計学分野)、木村委員長・松田委員・片受委員(心理学分野)、小原委員・石原委員(被服学分野)、井川委員・平野委員・山崎委員・西委員(数学分野)、鈴木委員・高原委員(電気通信分野)、栗原委員(土木工学分野)、佐野委員(生物学分野)、有馬委員(美術デザイン分野)、
事務局: 井端事務局長、野本副主幹、中村職員

IV. 議事の経過

角田担当理事兼総括委員長の議事進行により、分野連携アクティブ・ラーニング対話集会の具体的な開催内容について検討を行った。話題提供案の内容について確認を行うとともに、意見交流のテーマと内容の検討を行い、開催日時 場所、事前アンケート内容の確認と具体的な進め方について検討を行い、以下のとおり決定した。

1. 話題提供内容と提供者

① 数学分野

話題提供者: 金沢工業大学 基礎教育部教授 西 誠 氏
タイトル: ICTを使った反転授業がもたらす学修活動の変化と教育効果
内容: 反転授業にICT、eポートフォリオを活用することによって、事前・事後学修、アクティブ・ラーニングの質向上が見られ、学生の学修に対する意識が大きく変化し、知識、スキルの獲得に教育効果が得られることが確認されたことを報告する。

② 経営学・経済学分野

話題提供者: 帝塚山大学 経済経営学部教授 中嶋航一 氏
タイトル: 産学連携による金融リテラシー教育の実践
内容: 社会の実務者がeラーニングとスカイプを活用して学生の金融リテラシーの学びをファシリテートすることで、世界経済の動向を自分の問題として捉える教育成果について紹介する。

③ 生物学分野

話題提供者: 金沢工業大学 バイオ・化学部講師 谷田育宏 氏
タイトル: SDGsの推進を支えるプロジェクトデザイン教育
内容: SDGs推進のために学生が自ら課題を設定し、その実現に向けて研究を進めるプロジェクトデザイン教育(PD教育)の取組みについて紹介する。

④ 電気通信工学分野

話題提供者: 福岡工業大学 工学部助教 北崎 訓 氏
タイトル: ICTを活用した電気回路講義の教育改善
内容: Moodleによる講義資料・課題の公開、授業アーカイブシステムを利用した反転講義を行い、実際の回路を用いて現象理解を深める取組みおよび、内容に関する振り返りや質問に対するフィードバックを学修支援システムで行ってことを紹介する。

⑤ 機械工学分野

話題提供者： 金沢工業大学 工学部長教授 高野則之 氏

タイトル： eポートフォリオなどを活用した学修成果の可視化

内容： 学生自身がeポートフォリオ上に修学状況などを確認する自己成長シートに加えて、大学が求める人間力、専門能力に関するレーダーチャートを追加し、学修成果の可視化を行っている取組みを紹介する。

2. 意見交流のテーマと内容の検討

今年度は、問題発見・解決型教育(PBL)の推進に向けて、検討しておくべき教育体制及び教育方法等について論点を整理するとともに、学修環境としての学びのプラットフォームとファシリテータによる支援体制、ビデオ試問による思考力等の到達度点検・評価・助言の仕組みについて、意見交換を通じて実現可能性を探求するため、以下の4テーマで意見交流を行うとともに、参加者には意見交流のテーマに関連した内容のアンケート提出の協力を要請することを確認した。

- ① 地域社会及びSDGs（持続可能な開発目標）の課題解決を訓練するPBLの必要性と教育方法
- ② 知の創造を目指すICT活用の分野横断フォーラム型授業の進め方と課題
- ③ 学びのプラットフォームづくりとファシリテータによる支援体制
- ④ 外部者のビデオ試問による思考力等の点検・評価・助言モデルの仕組みと導入に向けた準備・課題

3. 開催日時と場所

開催日時：令和元年12月21日（土）13：00～17：00

開催場所：法政大学 市ヶ谷キャンパス富士見ゲート

4. 事前アンケートの内容検討

意見交流の運営に役立てるため、参加申込者に任意でアンケートを行うことについて協議し、以下の内容とすることを確認した。

- ① 問題発見・問題解決を目指すアクティブ・ラーニングのPBL(プロブレム・ベースド・ラーニング、プロジェクト・ベースド・ラーニング)の導入状況
- ② PBL導入による主な教育効果について
- ③ 問題発見・解決型PBLのニーズについて
- ④ PBLの運営で特に必要と思われる教員の役割について
- ⑤ PBLを実施していく上での課題について
- ⑥ ICTを活用した「学びのプラットフォーム」(学修支援システム)に求められる機能について
- ⑦ ファシリテータの支援に求められる重要と思われる役割について

V. 運営シナリオの検討と役割分担

各分野から選出された進行役委員は、アンケートを踏まえた運営を検討すること、次回は対話集会として当日、進行役委員と話題提供者による事前打合せ会を実施することを確認した。